

都道府県名	奈良県
-------	-----

．学校の概要（平成15年4月現在）

奈良市立三笠中学校						
	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	8	8	8	3	27	48
児童数	290	296	295	6	881	

．研究の概要

1．研究主題

自ら課題をもち、主体的に取り組もうとする生徒の育成  
～生きる力を育む教育課程の確立を目指して～

2．研究内容と方法

(1)実施学年・教科

全学年・全領域（全教科）  
学力をただ単に知識習得だけにとどめず、生きる力の育成と考え、その向上を目指すため。

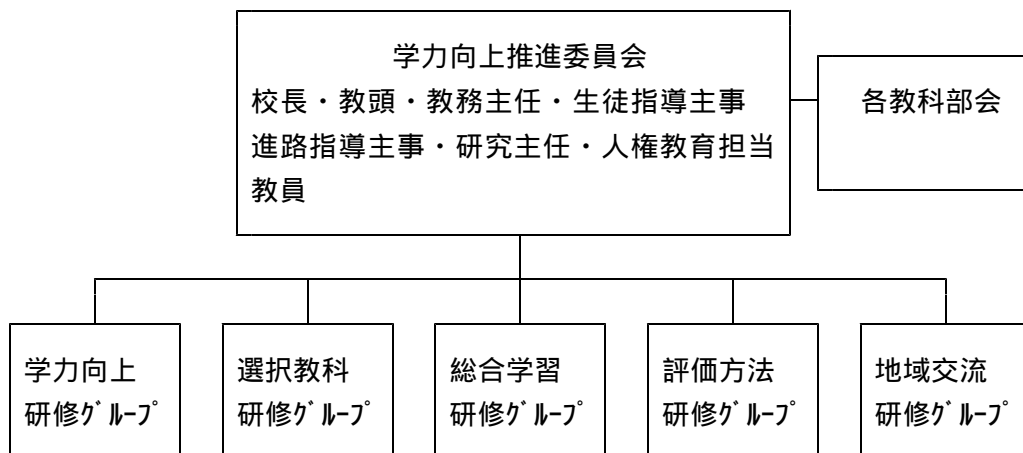
(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>自ら課題をもち、主体的に取り組もうとする生徒の育成 ～総合的な学習の時間、選択教科、少人数授業を通して～</p> <p>研究の見通し</p> <p>「自ら課題をもち、主体的に取り組もうとする生徒の育成」を研究主題に各教科で授業の改善を図り、わかる授業や生徒が主体的に参加できる授業を実践することで生きる力を育むことができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>学力向上推進（少人数授業、選択授業、目標に準拠した評価（絶対評価の定着、学力補充など）</p> <p>総合的な学習の時間の推進（課題設定力・問題解決力の育成、読書タイム、職業体験学習、地域の人材活用など）</p> <p>開かれた学校づくり推進（土曜日参観の実施、自由参観日の設定</p>

平成 15 年 度	<p style="text-align: center;"><b>テーマ</b></p> <p>自ら課題をもち、主体的に取り組もうとする生徒の育成 ～生徒一人一人がわかる学習指導の改善を目指して～</p> <p style="text-align: center;"><b>研究の見通し</b></p> <p>前年度の成果を継承しつつ、さらに個に応じた学習を推進することでわかる授業が展開できるのではないかな。</p> <p style="text-align: center;"><b>研究内容・方法</b></p> <p>学力向上推進（新教育課程2年目を迎え、少人数授業を含め、学習形態、指導方法の工夫と改善を行う、目標準拠学力検査を実施し、学力の客観的な把握を行う、 など）</p> <p>心の教育の充実（道徳、特活、総合的な学習の時間の充実）</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p style="text-align: center;"><b>テーマ</b></p> <p>自ら課題をもち、主体的に取り組もうとする生徒の育成 ～生徒の変容を検証して～</p> <p style="text-align: center;"><b>研究の見通し</b></p> <p>前年度の成果を継承しつつ、生徒の変容を具体的に把握し、生徒が今まで培ってきた力を発揮できる場を創造することで生きる力としての学力が育成できるのではないかな。</p> <p style="text-align: center;"><b>研究内容・方法</b></p> <p>教科の自主教材づくり</p> <p>学校自己評価を実施し、その評価に基づく多様な教育課程の編成</p>
--------------------	---

(3)研究体制



## ・平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 研究成果

今年度も数学・理科において少人数授業、英語においてT Tによる授業を行い、それぞれの学力に応じた取組を行うことができた。

少人数授業や選択教科についてはより多くの機会に、指導案の検討や生徒の様子の分析ができるようになり、有意義に運営ができた。

選択教科などにおいて習熟度別の講座を設定し、基礎・基本を学ぶコースと発展的な内容を学ぶコースを生徒選択の中で行うことができた。

今年度も奈良教育大学と連携をもち、教育大の学生にチューターとして補充学習に協力してもらい取組を進めることができた。

放課後学習チューター制度の指定を受け、全校体制で学力補充に取り組むことができた。

C R T（目標準拠学力検査）を実施し、客観的に学力を把握することができた。

夏休みにおける補充学習では、工夫した指導方法で効果を上げることができた。

読書タイムを帯びタイムで実施し、読書に対しての興味、関心を高めることができた。

### 今後の課題

今年度の少人数授業は均等割りのグループで実施したが、次年度はさらに工夫をし、習熟度別などの指導方法を考える。

学力向上に向けて少人数授業を含めた様々な学習形態（T Tや分割指導、個別抽出指導など）を必要に応じて活用できるようさらに研修を重ねる。

新教育課程に基づいた各教科での授業改善や評価についてさらに研究を推進し、各教科において学力の向上を目指す。

学力向上推進委員会の機能を活性化し、学力向上事業の深化を行う。

### ・学力把握のための学校の取組について

- ・個人の客観的な課題を明らかにし、今後の学力向上にむけての資料とするため、3月に1・2年の数学においてC R T（目的準拠学力検査）を実施した。

### ・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・今年度中に学校ホームページを開設し、研究成果の普及に努める。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校    ✓ 14年度からの継続校
- 【学校規模】                    3学級以下                    4～6学級  
                                      7～9学級                    10～12学級  
                                      13～15学級                ✓ 16学級以上
- 【指導体制】                    ✓ 少人数指導                ✓ T.Tによる指導  
                                      その他
- 【研究教科】                    ✓ 国語            ✓ 社会            ✓ 数学            ✓ 理科  
                                      ✓ 外国語        ✓ 音楽            ✓ 美術            ✓ 技術・家庭  
                                      ✓ 保健体育    ✓ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】            ✓ 有            無